

東大奈路

ひがしおおなる



窪

川町時代は「窪川町大奈路」であった。旧大正町にも大奈路という地区がある。合併にあたって、2つの地区を区別するために、大正の方を「大正大奈路」「窪川の方を「東大奈路」とした。

東大奈路は仁井田川を挟んだ根元の対岸で、地区の中央を国道56号とJR土讃線が走る。南は、カントリーエレベーターのあるJA四万十の集出荷場辺りから、北は、国道56号から十和大正方面への分岐地点までである。国道沿いは、会社事務所や飲食店などが点在し、地区の中心のようであるが、実は、国道より西に入った田園地帯が古くからの「大奈路村」である。



国道沿いには会社事務所や飲食店

たようである。さて「奈路」という地名は町内に限らず、実にたくさんある。山間の平坦な場所を指す「なるい」という土佐の方言から名付けられた地名であることは、よく知られている。この「なるい」は「なるい」がなまったものと思われる。坂道などの傾斜が緩いところを「なるい」という徳島の方言がある。また、兵庫県の一部には、平坦な場所を「なるい」という方言があるし、食べ物などのまろやかさを表現する時や、ものごとの緩やかさを表現する時に「なるい」という、遠く名古屋の方言もある。いずれの地方の「なるい」も、ゆったりとした状態を表現する時に使われるという点で一致している。「なるい」が広まって「なるい」となったのか、はたまたその逆かはわからないが、同じ言葉であることは間違いないさそうである。

村としてのスタートは江戸時代初期にさかのぼる。仁井田川沿いであることから、農業用水が豊富にあるように思うが、水をくみ上げる技術がない時代には、たとえ川沿いといえど農業用水には苦労した。このことは、四万十川沿いの各地の紹介でも触れてきた通りである。江戸期の灌漑工事、ようやくこの地区に農業用水がやってきた。これにより、新田開発が一気に進み、まとまった集落となった。大奈路が村として成立したのはこの頃である。はじめのうちは、南隣の「平串村」と合わせて石高計上がなされてい



地区の氏神様の天満宮

東大奈路には、現在28世帯、68人が暮らしている。

「なるい」ところ「東大奈路」の氏神様は、丸山と呼ばれる小さな丘にある天満宮である。もちろん菅原道真公が祀られている。地形も人もまろやかな

町のうごき	(1月31日)		前月比		出生		死亡		転入		転出	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	8,559	9,539	-18	-11	4	4	17	10	7	13	12	18
計	18,098		-29		8	8	27	20	20	30		
世帯数	8,617		-8		(1月中の届出)							

四万十川の水質状況

	適正值(mg/l)	2月1日
リン酸	≤ 5.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	1.10
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	15.00
化学的酸素要求量	≤ 10.0	測定範囲以下

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)